

授業作り	重 点	・学習目標の明確化を図る。 ・ICT機器の活用を進める。 ・主体的・協働的に学ぶ学習を図る。 ・個に応じた指導を工夫する。	中間 評価	・授業により知識や技能が身についたと感じた生徒が 91.8%(+3.2)、 少人数の授業が分かりやすいと感じた生徒が 88.5%(+2.9)、ICTを 使った授業が分かりやすいと感じた生徒が 83.0%(+1.7)であった。今 後、より生徒理解を進め、授業の工夫をしていく。*()は前年比	最終 評価	
環境作り		・安心して学習へ取り組める良好な学級集団を育成する。 ・教室環境を整え、学習や行動の決まりを生徒に分かるように示す。		・学校が安心して学習に取り組める環境だと感じている生徒が 89.8% (+0.2)であった。学級集団の育成と環境をより整えていく。		

■ 教科の取組内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
国語	【調】・新宿区学力定着度調査の結果を見ると、区も全国も 1.6～2.6%上回っている。観点別にみると「知識・技能」は区を 1％、全国を 2.1％、「試行・判断・表現」は区を 2.4％、全国を 3.8％上回っており、学力はついてきたものと思われる。ただ、「主体的学習態度」の正答率が全国を 4％下回っているのが懸念材料である。 【調】・領域別にみると、「読むこと」が区を 3％、全国を 10.2%上回っている一方「書くこと」が区を 1.2%、全国を 9.7%も下回っている。 【学】・生徒は日常的にノートに書くことを面倒がる傾向がある。	・「主体的学習態度」が低いのが大きな課題であり、今後の学習に大きく影響することが予想される。 ・「書くこと」の力が不足すると、相手に伝わらないばかりでなく、自分の思考を深めることが十分にできないことが予想される。「書くこと」の力を育成することは、喫緊の課題である。	・導入の工夫をし、生徒の意欲を喚起してから授業を始めるようにする。 ・俳句を作ったら、句会を開催したり、古典学習に百人一首を取り入れたりして楽しく学習できる雰囲気を作る。 ・新出語句を学習したら、意味の確認だけでなく、短文作りをしたり、意見交換のあとに互いにコメントを書いて交換したりと、短い文章を書くことに慣れさせ、ある程度まとまった文章 600 字～800 字が書ける力をつけていく。 ・文法や漢字については、ドリルパークを活用し、知識の定着に努める。	【調】新宿区学力定着度調査の国平均を 4.9%上回っており、概ね良好である。特に応用の設問において、14.2%上回っている点に注目したい。これは学習したことが定着している上に、自分の頭で柔軟に考えられたことを表している。また、4月の時点で課題であった「主体的に学習する態度」が身につけてきたことの表れである。今後も基礎学力の定着を疎かにすることなく、自分の頭で考える授業を模索していきたい。 【調】領域別にみると、「言語・情報・言語文化」は 4.1%「書くこと」は 10.9%「読むこと」は 7.9%上回っているのに、「話すこと・聞くこと」は 1.7%下回っている。注意深く人の話を聞き、適切な言葉を選んで表現することを意識させる話し合いの授業を構築していきたい。	
社会	【調】・新宿区学力定着度調査を見ると、新2年生の正答率は全国平均を 5. 3％、区平均を 5. 8％上回っている。どの観点も全国・区平均ともに上回っているが、領域別では、地理「日本の姿」の正答率が全国・区平均ともに下回っている。 ・新3年生社会科の平均正答率も全国、区平均ともに上回っている。観点別では主体的に学習に取り組む態度が3観点で最も高くなっており、他2観点も全国平均を上回っている。領域別では歴史「江戸時代」の正答率が全国平均より低いため、改善が必要である。全体的に基礎学力の定着が課題である。 【学】・授業は意欲をもって参加する生徒が多い。提出物の状況も概ね良好である。	・社会的な事象に対する関心や意欲は高い生徒が多い。 ・家庭学習の定着ができておらず、授業で学習をした内容が定着していない生徒も一定数いる。 ・資料活用については、複数の資料を読み取ることを苦手にしているところが見られる。 ・社会的な判断力や表現力を付けていく上で必要な、主体的に考える力が弱いことが課題である。	・ICT 機器や各資料、実物など視覚に訴える教材を有効に活用し、関心・意欲をさらに高める。 ・資料活用の技能は、授業の中で地図や統計などの複数の資料を扱い、読み取る力を高める。その際タブレット端末を効果的に活用する。 ・授業内容を理解しやすいように動画や図、絵等を活用し、机間指導の充実を図る。 ・学習内容定着のために、授業開始時に前時の復習を取り入れ、単元ごとに小テストを行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・社会的事象について、主体的な学習を通じ、自分の意見や他者の考えを積極的に取り入れ、調べた内容を図表や文章等にまとめることで、思考、判断力、表現力を高めていく。	【調】今年度の新宿区学力定着度調査は、全国平均を 3.1%上回っている。応用は全国平均より 6.3%上回っており、学習したことを表現したり、資料を読み取ったりする力については、と考えると考えられる。授業の中で基礎・基本を繰り返し学習する時間をとったり、単元ごとに小テストを行ったりして、基礎・基本がさらに身につくようにしていく。 【学】授業は主体的に学習する生徒が多い。グループ学習の中で、生徒同士教え合いながら活動できている。今後も基礎・基本を大切にするとともに、話し合い活動、発表活動も取り入れながら、学習した知識を活用する力を伸ばしていく。提出物の状況も概ね良好であるが、個別に支援が必要な生徒もあり、きめ細かい指導を継続していく。	
数学	【調】・新3年生の正答率は全国平均を 6. 0％、区平均を 0. 8％上回っている。3観点すべてにおいて、全国・区平均ともに上回っているが、領域別では、「数と式」の正答率が区平均を下回った。D層が区全体よりも 2. 4％上回っている。 【調】・新2年生の正答率は全国平均を 1 4. 1％、区平均を 9. 3％上回っている。3観点および領域別のすべてにおいて、全国・区平均ともに上回っている。 【学】・どの習熟度別のクラスにおいても、意欲的に授業に参加する様子が見られる。 ・考え方を書き表したり、説明したりするのが苦手である。	・新3年生においては、D層を中心に、基礎的な知識、計算力に課題がある生徒が多い。また、「図形」に比べて、「数と式」、「関数」の正答率が低いことから、文字の使い方について課題があると考える。 ・新2年生においては、全体的に理解が高い様子が見受けられるが、授業の様子から、考え方を書き表したり、説明したりするのが苦手である。 ・全体的に、学習したことを身の回りの事柄に結び付けて考えることが苦手である。	・ICT機器を活用し、基礎的な計算力を高める演習をおこなう。 ・文字で表すことの良さや必要性を感じさせる教材を開発する。 ・習熟度別授業をいかして、生徒一人一人の理解度に応じた指導の充実を図るとともに、小テストや演習を細やかに実施して、適したクラスを選択できるようにする。 ・話し合い活動、発表活動を授業に積極的に取り入れ、表現力を伸ばしていく。 ・身の回りのことに結び付けた教材を開発する。	【調】今年度の新宿区学力定着度調査は、全国平均を基礎：10.7%、応用：10.0%、教科総合 10.5%上回っている。観点別では、全国平均を知識・技能が 11.1%、思考・判断・表現が 9.4%上回っている。単元別では、数量が 6.1～11.3%全国平均を上回っているのに対し、図形が 0.1～8.0%上回るのとどまっており、図形単元における学力を伸ばしていく必要がある。 【学】習熟度別少人数授業において、個に応じた指導や演習が行われているため、多くの生徒が主体的に取り組んでいる。また、習熟度が同じ程度の生徒同士で教えあうなどの協働的な場面もみられる。	
理科	【調】新宿区学力定着度調査から新2理科の正答率は 62.7%で新宿区全国いずれの平均を 4～6%上回った。また、新中3理科の正答率は 66.0%で新宿区全国いずれの平均を 6%上回っている。 【調】観点別に見ると、2年3年ともに全国・新宿区ともに上回っているものが「主体的に学習に取り組む態度」が他の観点と比較して正答率が低い結果を示している。 【調】新2年の「エネルギー」の領域と新3年の「地球」の領域が他の分野と比較して低い結果になっている。 【学】授業や実験に対して意欲をもって参加する生徒が多いが、知識の定着や家庭学習の習慣が身につけていない生徒もいる。	・実験における観察の指導やまとめの仕方が課題である。 ・実験の目的や方法について明確化し目的を持ち課題に取り組もうとする姿勢の育成が課題である。 ・エネルギー（粒子）概念の形成が課題である。 ・気象や天体の現象を科学的に分析し究明していこうとする姿勢の育成が重要である。 ・家庭学習による学習内容の定着が不十分であることが課題である。 ・中位層～下位層は自ら課題を見付け解決しようとする姿勢が不足していることが課題である。	・見通しをもって観察実験を行い、結果をレポート等にまとめることを繰り返し指導していくことが求められる。 ・ICT機器を積極的に用いるとともに、授業テーマの提示、授業内で行った内容に知識のまとめを行う。 ・授業者が適宜課題等を指示し家庭学習で復習を実施しやすい環境の整備を実施していく。 ・中位層～下位層の底上げのために実験の結果について班で話し合い課題を解決しようとする姿勢を育成していく。 ・気象や天体の観察や実験が難しい単元については、タブレット端末を効果的に活用する教材開発を進める。	【調】全国学力調査における全項目において全国平均正答率に比べ 10%程度上回るが、思考判断表現の項目が他項目より 2.6%下回っている。新宿区学力定着調査では教科総合における評価は全国平均正答率に比べ 6.2%上回っているが知識技能の項目は他項目より 5%下回っている。 【学】知識の定着を図るために授業内において前時の内容を復習する時間を継続的に設け家庭学習の充実も図る。また、考察の記述から思考や表現力を高める指導を継続的に行う。	
英語	【調】新宿区学力定着度調査を見ると、新2、3年生ともに、全ての観点において全国平均を 1 0％以上上回っている。 【調】とりわけ「書くこと」の能力は全国平均より新2年が 1 2％、新3年が 1 7. 5％と大きく上回っている。 【学】授業には意欲をもって取り組んでいる生徒が多く、言語活動にも積極的な態度が見られる。一方で「話すこと」「書くこと」による表現活動には苦手意識をもつ生徒も見られる。課題提出に関しては、中位層・下位層を中心に取り組みが不十分な生徒がいる。	・「聞く」というインプットの能力は高いが、その聞いたものをアウトプットする機会に恵まれていない。そのためアウトプットの機会を増やし、授業における「話す」言語活動の機会を取り入れ、繰り返すことによって「表現の能力」の定着を図る必要がある。 ・「書く」ことにおいても自分の体験や意見を書く指導にも重点をおき、まとまりのある文を書く機会を多く増やす必要がある。	・既習事項の語彙や表現を用いて、英文を書くことおよび話すことを継続的に指導する。 ・教科書の各パートにある「Write」を活用することで、時には個人添削するなど短い英文を日ごろから取り組ませ単元の最後の Unit ActivityやLet’s write、Stage Activity でまとまりのある英文や場面に応じた英文に取り組ませる。 ・ペアワーク、グループワークを多く取り入れ、即興でも英語が出るよう、普段から自らの意見を表現し伝える活動を継続的に行う。 ・ICT 機器の活用は今まで以上に常態化し、タブレット端末を使った個別化を図る。	【調】今年度の新宿区学力定着度調査の正答率は 71.0%と、全国よりも 11.0%上回った。観点別では「思考・判断・表現」において本校は 67.2%であり、全国を 11.8%上回った。「読むこと」では 70.7%であり、全国の 57.1%より 13.6%も高い結果となった。 【学】「話すこと」に関してはより手厚い指導が必要である。今年度から実施される英語スピーキングテスト ESAT-J に向けても、生徒が個々に話す時間を確保する必要がある。	